

「オシロイバナの研究 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

オシロイバナの観察の魅力は、とにかく花粉が美しいことである。ほとんど真球に近い、透明感のある黄色い球だ。オシロイバナの花は、夜間に咲く。蝶ではなく、主として夜行性のスズメガ等を誘引していると、考えられる。早朝には、開花した花が残っていることもあるが、子どもたちが活動する時間帯には、ほとんどの花はしぼんでしまっている。しかし、つぼみやしぼんだ花でも、花粉の観察は可能である。



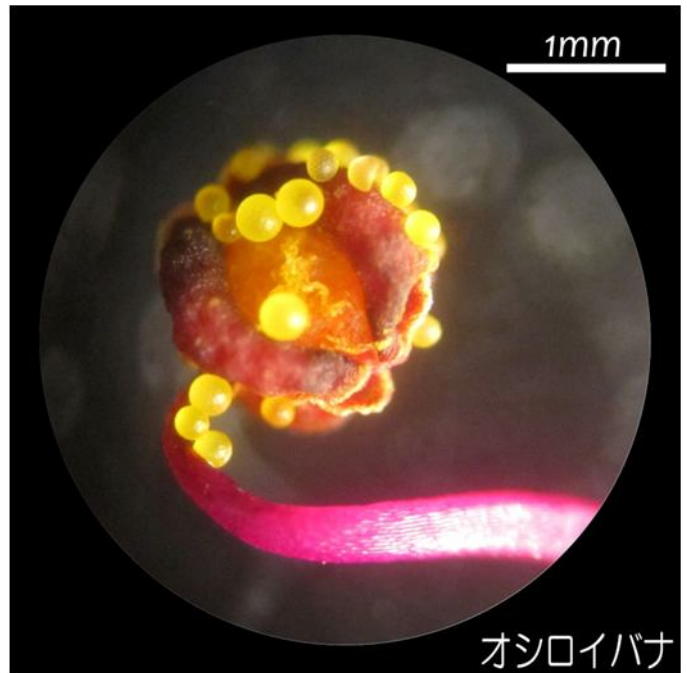
「花柱 (めしべの茎) についてのオシロイバナの花粉」すでに受粉が終わって、しぼんだ花の中には、めしべの先端以外の場所にも花粉が見られることがある。この写真もそうだ。透過光よりも、反射光のほうが、実物の色に近く観察ができる。(×100)

【こどものノートから】

「オシロイバナの花粉は、意外と (意外と) かんたんにみつかった。おしべの先だんに、たくさんついてた。ビー玉のようで、きれい。」

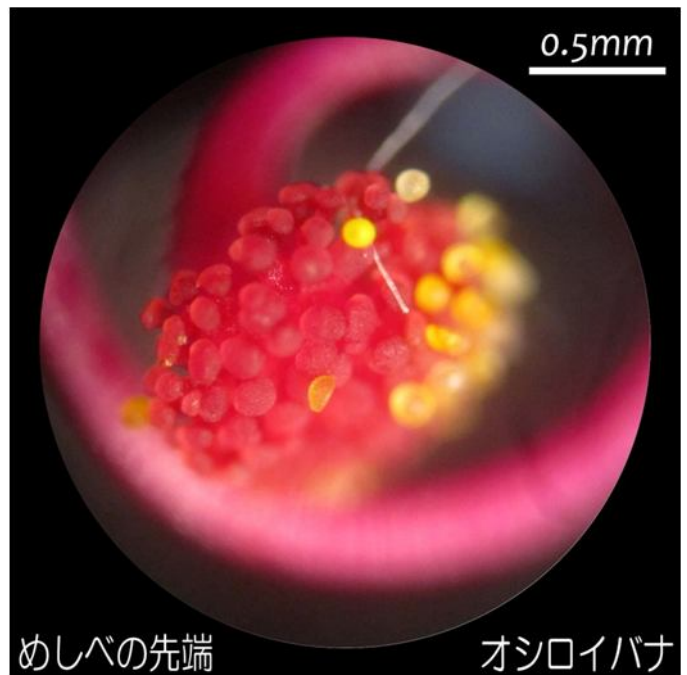
「つぼみのおしべを取り出して、けんび鏡でみたけど、花粉は見えなかった。その先だん (やく) をピンセットでつぶしたら、中から花粉がたくさん出てきた。やくは、花粉をためる (作る?) 場所だとわかった。」

「アゲハのタマゴにそっくりだった。」



「おしべの先端 (薬) についての花粉」(×40)

大きさがさまざまなのが、面白い。



「めしべの先端についての花粉」(×40)

めしべの先端は、凹凸が激しく、そのすき間に花粉が付着している。

オシロイバナのおしべ、めしべは形状が面白い。子どもたちは、めしべの先端に触れて、ネバネバしていることに興味を持ったようだ。(つづく)